



Kohta press

Powered by **HANKOOK**
driving emotion

Super Taikyu
Japanese Endurance Race

ENEOS

スーパー耐久 第7戦 2022年11月26-27日 鈴鹿サーキット

予選 2nd / 決勝 DNF

今シーズン3勝し、2位とは20ポイントの差をつけて迎えた最終戦。完走さえすればチャンピオンという中で、マシンに問題が生じ、途中リタイア。クラウンRSもこのレースが最後でしたが、残念ながらチェッカーを受けることはできませんでした。最終戦の結果によりシリーズランキングは2位。これで今シーズンのすべてのレースを終了しました。

最後まで応援いただき、ありがとうございました。



予選はドライ。Aドライバーの服部選手は3位、Bドライバー吉田選手は1位。合算タイムで2位、決勝はフロントからの良い位置でスタートできます。Cドライバーである自分の予選は5時間のロングを想定し調整を行いました。

最終戦は全クラスが揃い台数も多い中、スタートドライバーを担当。ST-3クラスのスタートに問題はなかったものの、他クラスでスピンがあり1周目からFCY。ポジション維持で、周回を重ねます。FCY解除後の16周目に今度はクラッシュが発生。この車両を回収するため、FCYからSC、18周でレース再開。リスタート後、22周のスプーンコーナー手前の直線で、突如エンジン停止。何とかマシンをコース外に出したものの、エンジンは掛からず。ピットまで牽引、その場でマシンを調べましたが



原因は分からずこのままリタイアになりました。シリーズの行方は他車の結果次第。この後、2番手を走行していた#15がマシントラブルでストップし、シリーズチャンピオンを争っていた#39が2位に浮上。これで20ポイントあった差が逆転され、ランキングは2位に陥落。シリーズチャンピオンにはなれませんでした。後日、マシンをチェックしたところ高圧燃料側のセンサーが原因であることが判明。最後まで絶対はない、というレースの厳しさをあらためて痛感しています。チャンピオンを獲得できなかった悔しさと申し訳なさでいっぱいです。この経験を糧に、さらに精進していきます。多くのご支援とご声援、誠にありがとうございました。

今大会で今年の競技が終了いたしました。たくさんのご支援・ご声援に心より感謝申し上げます。今後も引き続き、よろしくお願いいたします。

